

# 獨協大学 環境報告書 2016

特集① | これまでも、これからも。獨協大学は、  
環境と共生するエコキャンパスづくりを推進します。

特集② | 生物多様性豊かなキャンパスから、  
学生たちの気づきや地域との活動が生まれています。





自然と建物と人間が  
どのように調和できるかを考え、  
大学づくりをしています。

獨協大学は、地球温暖化防止の実証フィールドとして、エコキャンパス・プロジェクトを推進してきました。これまでの省エネや創エネなど、自然との共生に向けた取り組みに加え、2017年1月に「創立50周年記念館（西棟）」が竣工することにより、エコキャンパスは完成に近づきます。私たちは、太陽光発電や地中熱利用といった建物の環境配慮だけでなく、

地球規模で考え、多様な価値観を受け入れ、足元の課題解決を行える人材の育成につながる学校づくりをしています。そのため、「創立50周年記念館（西棟）」には、学生が主体的に課題を発見し、課題に対するアプローチの仕方を考え、その結果を学内だけでなく広く世の中に発信していく新しい学びの姿の実現に向けて、ラーニング・コモンズのコンセプトにもとづいたデザインを導入しました。

今後は、大学の緑の回廊と大学前の松原団地記念公園をつなぎ、生物多様性の回復を図りながら、地域社会の方々と共に環境と人間の共生について考えるフィールドを拡大していきたいと考えています。

2007 天野貞祐記念館



2010 敬和会館



2010 東棟



駅名の変更とともに、  
地域の期待に応えていく責任が  
高まってきていると感じます。

2017年4月1日に「松原団地」という駅名が「獨協大学前＜草加松原＞」に変更されます。大学と地域の交流が少しずつ花開き、大学に対する地域の期待が高まっていると感じます。

獨協大学では、大学の前を流れる伝右川をフィールドに、教員や学生、市民団体が一緒になって、カヌーを使った清掃活動や生物多様性の調査、「伝右川再生会議」の開催などに取り組んできました。こうした活動に呼応するように、埼玉県も伝右川の親水護岸エリアを拡大し、地域の人たちが川に親しめる環境の整備を進めています。また埼玉県では、地球温暖化対策としてCO<sub>2</sub>排出削減計画を推進しており、私たちは、これに応えることによって、環境保全に向けたリーダーシップを発揮していく必要もあります。環境問題は、短期間で結果の出るものではありませんから、地道に取り組んでいくことが肝要です。私たちは、行政や地域社会に対して情報発信を行い、行動を共にし、街づくりに積極的に関わっていくことで、地域全体の生物多様性の回復や、環境との共生の実現に貢献していきます。

環境を超えた経済成長はない。  
課題を発見し、共有していくことが、  
環境問題の解決につながります。

環境問題は、油断して生活しているうちに、ある日、突然気づく生活習慣病のようなものだと思います。自分一人くらい省エネやリサイクルをしなくても世界は変わらないだろうと思っていると、大変なことになります。私たちは便利で快適な生活をしながら、地球に大きなインパクトを与えているのです。こういった認識を持つことが、課題の発見につながり、発見したことを共有することで課題の解決につながっていきます。私たちは、環境の枠を超えた経済発展や成長はありえないのだという認識を共有し、将来の大学づくり、街づくりに向けて地道な活動を続けていく必要があると考えています。

先日、埼玉県の大持山にブナ林の調査に行ったのですが、胸高直径1m50cmほどもある大きなブナが立ち枯れていました。少なく見積もっても樹齢400年以上の大木が、枝を全部落とし、キノコが出て、哀れな姿に変わっていたのです。これは、地球温暖化に対する自然からのメッセージであると感じました。

2012 学生センター



2017 創立50周年記念館（西棟）（完成予想図）



獨協大学 学長

犬井 正

（経済学部教授・理学博士）

#### ● 大学概要

獨協大学は、「大学は学問を通じての人間形成の場である」という理念のもと、1964年に建学された文科系総合大学です。埼玉県を流れる伝右川のほとり、約12万m<sup>2</sup>の敷地に4学部11学科を有し、約9,000人の学生が学んでいます。

#### ● 報告対象範囲・期間

獨協大学における2015年4月～2016年3月のデータを開示しています。（事例やデータの一部は、これ以前・以後のものを含みます）

#### ● 最近建設された主な建物

2007年竣工 天野貞祐記念館（地上5階建・延床面積約29,500m<sup>2</sup>）  
2010年竣工 敬和会館（地上10階建・延床面積約5,800m<sup>2</sup>）  
2010年竣工 東棟（地上5階建・延床面積約14,700m<sup>2</sup>）  
2012年竣工 学生センター（地上6階建・延床面積約9,600m<sup>2</sup>）  
2017年竣工予定 創立50周年記念館（西棟）  
（地上4階建・延床面積約13,400m<sup>2</sup>）

#### ● 最近増設された学科

2013年4月開設 経済学部 国際環境経済学科





特集①

# これまでも、これからも。 獨協大学は、環境と共生する エコキャンパスづくりを推進します。

獨協大学では、2007年に竣工した「天  
「敬和会館」「東棟」「学生センター」「学  
新たな施設に地球温暖化防止に向けた  
今後も、地球温暖化防止の実証フィールド  
地域の省エネ・省CO<sub>2</sub>のリーダーシップ

## ～2016

これまでの成果について  
報告します。

獨協大学は、自然と建物と人間が調和する  
新たな大学づくりの一環として、「風」「光」「水」  
などの自然エネルギーを有効利用する  
「エコキャンパス・プロジェクト」を  
推進してきました。

### キャンパス内 マイクログリッド



太陽光発電システム、高効率  
発電型 GHP (ガスヒートポン  
プ)、マイクロ・コジェネレーションシステ  
ムによるキャンパス内マイクログリッド  
(分散型発電システムのネットワーク)  
を構築。現在は、キャンパスの総受電  
量の約9%をマイクログリッドによって  
賄えるようになり、教職員や学生の省  
エネ活動とあわせて、夏期の電力ピー  
クの削減に貢献しています。



太陽光  
発電システム



太陽光発電システム



高効率発電型 GHP (ガスヒートポンプ)



教室の窓に設けた自然吸気  
口から外気を取り込み、廊下、  
階段を介して建物上部で廃棄する自然  
風の通路を形成しています。



自然吸気口 (ウィンコン)



光ダクト式階段室やライトシェ  
ルフによって太陽光を積極的  
に取り込むことで、照明の電力エネ  
ルギー削減を図っています。



光ダクト方式の階段室から採光する東棟1Fロビー



キャンパス全体を覆う緑陰を  
形成することで、省エネ効果を  
高めると同時に、昆虫や小動物が行き  
交う緑の回廊をつくりあげています。



緑の回廊



自然排気口 (スウィンドウ)



自然光を取り入れた小教室



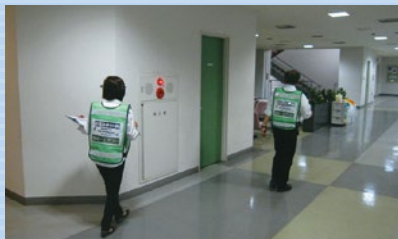
建学時に植えられた楠の大木



野貞祐記念館」をはじめ、  
生センター別館」など、  
施策を積極的に導入してきました。  
ドとして、  
を担っていきたいと考えています。



マイクロ・コジェネレーションシステム



節電見まわり隊による構内見まわり

**IT** 学生参加型の省エネルギー活動に向けて、約70室ある部室の各室に「見える化モニター」を設置しています。モニターには、照明、コンセント、換気の電力消費量などが表示されます。



部室内の見える化モニター

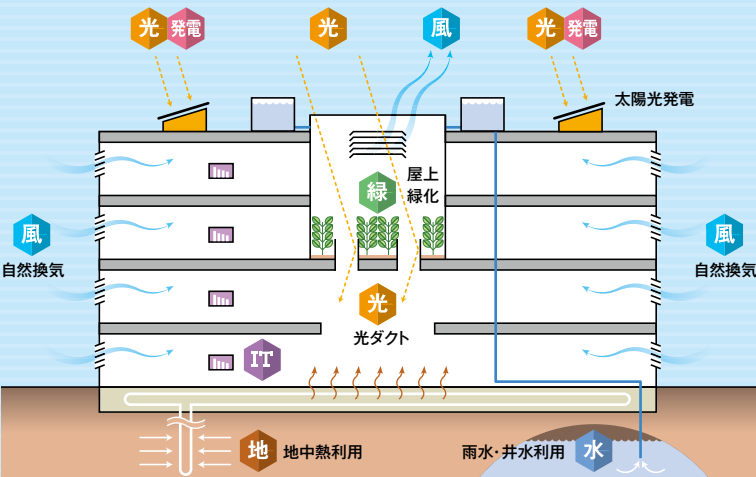
# 2017~

2017年1月竣工の  
創立50周年記念館についてご紹介します。

「創立50周年記念館(西棟)」は、  
「エコキャンパス・プロジェクト」の集大成です。  
これからも獨協大学は、自然の恵みを感じ、自然との共生を考える  
キャンパスづくりを通じて、豊かな人間性を育んでいきます。



創立50周年記念館(西棟)  
(完成予想図)



自然エネルギーを有効活用するエコキャンパス

**光** 太陽光発電システムを設置。キャンパス内マイクログリッドの一部として稼働させることで、エネルギーの地産地消を拡大していきます。また、可動水平ルーバーにより夏は日射しを遮り、冬は日射しを取り込み、空調エネルギーの削減を図ります。

**地** 地中は、年間を通じて17℃~22℃と温度が安定しています。地中100mにパイプを差し込み、その熱を建物エントランスホールの空調に利用します。

**風** 階段室上部に設けた窓を利用した自然換気によって省エネを促進します。

**水** 雨水・地下水をトイレの洗浄水に利用します。

**緑** 東棟と同様に憩いの場となる「屋上庭園」ガーデン・スクエアを設置しています。

**IT** 館内のディスプレイに各種環境情報を表示することにより、建物の省エネ性能を学生に伝えます。





特集②

## 生物多様性豊かなキャンパスから、 学生たちの気づきや地域との 活動が生まれています。

獨協大学のある一帯は、もともと水田地帯  
農村の里山に生息していた生物が少し  
自然のサイクルを実際に観察することで、  
また、「蛇口をひねれば水が出る」「スイツ  
新たな気づきを得た学生たちが、他の学

### キャンパスに 里山のにぎわいを 取り戻しています。



#### 緑の回廊

小動物や鳥、昆虫などが地域に生息し、自由に行き来するためには、緑の回廊が必要です。本学では、キャンパス内の森と、草加市内の公園や水辺をつなぐことで、地域全体の緑の回廊づくりを進めています。キャンパスには、雑食性のオナガなどが巣をつくっており、餌となる昆虫やカエルが繁殖していることがうかがえます。



キャンパスに木陰をつくる緑の回廊



日本最小の猛禽類であるツミも観察



#### 伝右川再生会議

2014年から毎年継続して開催。2016年11月の第3回「伝右川再生会議」には、埼玉県河川環境団体連絡協議会代表大石昌男氏を基調講演に招聘し、伝右川再生支援プロジェクトチーム、環境・国際団体Decoが今後の川の浄化・再生に向けた実効性ある取り組みについて議論しました。今年、河川清掃活動の活性化のために、新しく2艘のカヌーを製作しました。会議後には親水護岸において、カヌー進水式および体験会を実施しました。



学生による伝右川の調査



伝右川再生会議



#### 講演・討論会

##### 「フクシマの未来を考える」

国際環境経済学科の学生が中心になって、2014年から毎年「フクシマの未来を考える～大学生のうちに知っておくべきこと～」を開催しています。東日本大震災から5年が経過した2016年6月の第3回講演・討論会では、福島中央テレビの佐藤崇氏に、当時の様子や現在の福島について語っていただきました。また、パネルディスカッションには学生たちも参加し、福島から見てくる日本のエネルギー問題について議論しました。



#### 環境週間

##### 「Earth Week Dokkyo」

持続可能な地球社会の実現を目指して、新たに今年から環境週間「Earth Week Dokkyo」がスタートします。12月12日～16日の期間での開催に向けて、国際環境経済学科再生可能エネルギー普及プロジェクトチーム、および同学科の有志学生が企画運営しています。「地球温暖化と省エネ対策」「環境保全と生物多様性」「廃棄物とリサイクル」「食と農の安全性」「災害復興とボランティア」「貧困の撲滅と途上国支援」などをテーマとしてとりあげます。



でした。緑の回廊や水田づくりなどを進めることで、キャンパスには、  
ずつ戻ってきました。田んぼに水が入る頃に昆虫が孵化し、それに合わせて鳥も繁殖します。  
学生たちは、自分たちの食べるものがどこから来ているのかを考え、  
チを押せば電気がつく」といった、当たり前のように感じている日々の生活様式を再点検するようになります。  
生や地域の方々へ働きかけることによって、さまざまな活動が生まれています。



### 小川

キャンパス内の小川の周辺には、近隣の生態系にもとづいた植物を植えています。夏には近隣の方々に招いて、本学の環境共生研究所で養殖しているホタルの観察会も開催しています。



成虫に育ったホタル



地下水を循環利用した人工の小川



松原団地の藤幼稚園の園児18名が、ホタルの幼虫の放流に参加しました



### 屋上庭園

近隣の里山を再現した庭園で、130種類以上の草木や野菜を育てています。使用する堆肥は、隣接する女子学生寮の廃棄物(生ゴミ)とキャンパスの落ち葉を使用しています。



採れた野菜の一部は女子学生寮の食材に



今年の田植え風景



### 田んぼ

田植えや稲刈りなどの農業体験や、収穫した「獨協米」の試食などを通して、食・農・環境のつながりを学びます。「獨協米」には、放射線チェックを行った福島県産の苗を使用しています。



藤幼稚園の園児が自然観察



### 近隣の小学校へ出前授業

2014年から毎年、国際環境経済学科のゼミが中心となって近隣の小学校で環境教育を実施しています。今後は、参加する学生を増やし、草加市内の他の小学校にも広がっていきます。



花栗南小学校での環境教育



### 学生サークル Decoの活動

学生の「環境・国際団体Deco」は、地域住民との協力で、川に投棄された自転車のサルベージ活動などを行っています。



力を合わせて投棄自転車のサルベージ中



学生たちの  
気づきが、  
さまざまな活動に  
つながっています。

# 自然との共生に真摯に取り組み、 豊かな人間性を育んでいます。

**獨** 協大学は、環境との共生を考え、豊かな人間性を育むキャンパスづくりに向けて、2007年に環境共生研究所を、2013年に国際環境経済学科を開設しました。また、天野貞祐記念館、敬和会館、東棟、学生センターに、省エネ・創エネ等の設備を積極的に取り入れるとともに、地球温暖化防止や生物多様性の回復に向けて、キャンパスや周辺地域を実証フィールドとした活動を展開しています。

## 獨協大学環境宣言

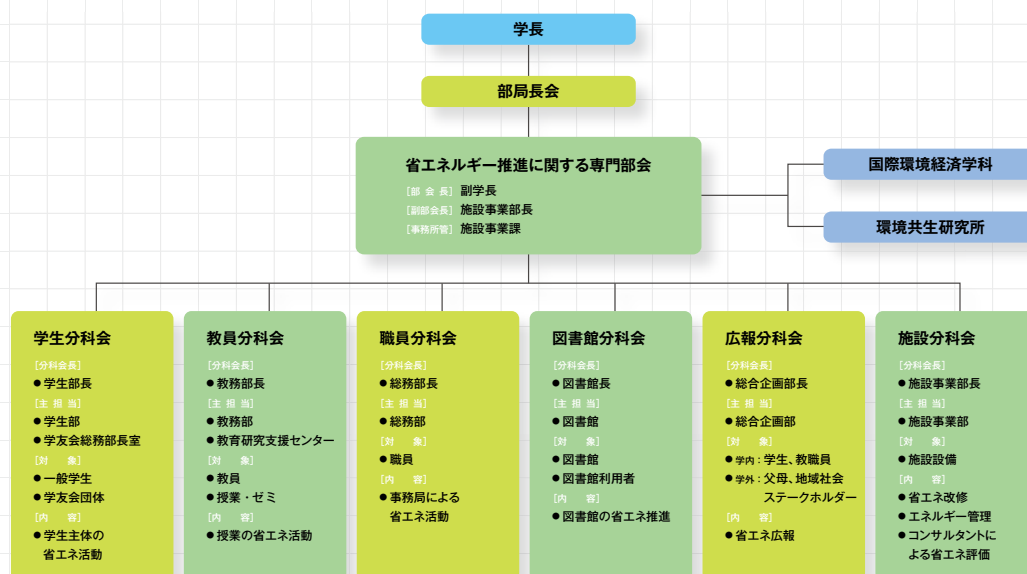
私たちは、地域環境や地球環境の保全を重要課題とする社会の責任ある一員として、すべての教育、研究活動を通じて、人々の健康増進と環境保全に寄与することを目標に掲げ、以下のことに積極的に取り組みます。

- ◎ 環境教育、環境研究、環境啓発活動に取り組みます
- ◎ 省エネルギーや環境保全に適合した設備、備品を使用します
- ◎ モノや資源を大切に使うとともに、ゴミの減量化やリサイクルを推進します

2008年6月 獨協大学

## 推進体制

**環** 境施策の導入など環境保全のための意思決定を速やかに行い、実行し、適正な評価を行えるよう、学長をトップとする推進体制を構築しています。2015年12月には、より強力な省エネ施策の立案と実行に向けて、本学の研究機関である環境共生研究所および国際環境経済学科の参画のもと推進体制を再編しました。省エネのリーダーシップ・キャンパスを目指した活動を展開していきます。





**環** 境施策の導入など環境保全のための意思決定を速やかに行い、実行し、適正な評価を行えるよう、  
学長をトップとする推進体制を構築しています。また、草加市や市民団体、建築設計事務所、建設会  
社、エネルギー関連企業など外部との連携を深めることで、活動の継続的な改善や拡大につなげています。

## 獨協環境スタンダード

2009年2月策定 2012年3月改訂

### 1/ 環境教育、環境研究、環境啓発活動に取り組みます

| 目 標                                          | 2016年度の自己評価                                                                                                                      |
|----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 図書館に環境コーナーを設置し、<br>環境関連書籍の充実を図る              | ○ ● 環境関連の図書・雑誌は環境のエリアにまとめて設置<br>● 自然の権利／環境倫理の文明史、環境影響評価／その意義と課題、<br>地球環境学事典等の購入によりエリアを充実                                         |
| 環境共生研究所と省エネルギー推進に関する<br>専門部会との連携で、環境報告書を発行する | ○ ● 環境共生研究所と省エネルギー推進に関する専門部会との連携で、<br>環境報告書を発行                                                                                   |
| 環境共生研究所の主催による<br>環境シンポジウムを開催する               | ○ ● 小中高におけるESD(持続発展教育)の新たな方向性、深夜化見直し<br>シンポジウム、ローカルに学ぶ生物多様性など、シンポジウム6回・フォーラム1回を開催                                                |
| エネルギーの「見える化」を図り、エネルギー<br>使用実態の開示と省エネ意識の向上を図る | △ ● 学内および敬和会館に太陽光発電装置の発電状況が分るモニターを設置<br>● 学生センターの全部室に部室で使用されるエネルギー量や自然換気有効を示すモニターを設置<br>● ウェブ上でエネルギーの「見える化」を実施、「見える化」の一般公開は今後の展開 |
| 獨協大学環境週間を設定する                                | ○ ● 経済学部国際環境経済学科・環境共生研究所主催で獨協大学環境週間<br>「Earth Week Dokkyo」を開催。次年度以降も継続して開催することも決定                                                |
| 消耗品の支給時には、大切に使うよう<br>アナウンスを行う                | ○ ● 学内メールで消耗品の配付通知を行う際、大切に使う旨をアナウンス                                                                                              |

### 2/ 省エネルギーや環境保全に適合した設備、備品を使用します

|                                   |                                                                                                    |
|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新しい設備の導入時には、<br>省エネタイプの機器・設備を導入する | ○ ● マイクロ・コジェネレーション・システム、高効率発電型 GHP、<br>ルーツプロア型 HP などを導入<br>● 創立 50 周年記念館(西棟)では、さらに地中熱利用空調システムを導入予定 |
| ポータルサイトの活用により、<br>紙の使用削減を図る       | ○ ● ポータルサイトの運用を本格稼働                                                                                |
| グリーン購入法で認められた備品の<br>購入を促進する       | ○ ● グリーン購入法適合商品、エコマーク認定商品、<br>GPN エコ商品ねっと掲載商品などを積極購入                                               |

### 3/ モノや資源を大切に使うとともにごみの減量化やリサイクルを推進します

#### エネルギーの使用について

|                              |                             |
|------------------------------|-----------------------------|
| 不要な照明や空調を切る                  | ○ ● 学生・教員・職員による学内節電パトロールを実施 |
| 各教室へのステッカー貼付により、<br>省エネ啓発を行う | ○ ● 教室等への節電ステッカーおよび液晶温度計の貼付 |

#### 廃棄物の分別の徹底について

|                            |                                                                        |
|----------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| リサイクル用ゴミ箱を設置する             | ○ ● 各事務局に紙類のリサイクルボックスを設置<br>● ペットボトル、ビン・カン用リサイクルゴミ箱を各所に設置              |
| 各ゴミ箱に廃棄物の種類を明記する           | ○ ● ゴミ箱に廃棄物の種類を記したステッカーを貼付                                             |
| ペットボトルを廃棄する際に<br>ふたと容器を分ける | ○ ● 学生サークル Deco が中心となりエコキャップ運動を展開<br>● ペットボトルのふたを入れる容器を設置するとともに分別を呼び掛け |

#### 学生・教員・職員の「緑の保存・管理」体験について

|                             |                                                    |
|-----------------------------|----------------------------------------------------|
| 東棟屋上庭園で野菜の栽培を行う             | ○ ● 教職員・学生が参加し、サトイモ、キュウリ、トマトなどを栽培<br>● 環境教育の授業へも活用 |
| 芝生広場に小川を作り、<br>水生動植物との共生を図る | ○ ● 地下水を利用し、メダカ、ミズスマシ、ミソハギなどの動植物が生息する小川を造成         |



## 地球温暖化防止の実証フィールドとして、 キャンパスの省CO<sub>2</sub>活動を推進しています。

**獨**協大学は、工学部や医学部など理工系の学部をもつ大学に比べればエネルギーの使用量は少ないものの、それでも近年のICT化によるコンピュータ利用などにより、エネルギーの使用量やCO<sub>2</sub>排出量は大きなものになっています。獨協大学では、「エコキャンパス」の一環として、キャンパス内マイクログリッド\*1の省エネ・創エネ設備によるアクティブな要素、光ダクト式階段室など自然をうまく取り入れるパッシブな要素、エネルギー需要予測システムなどの情報システム、そして教職員と学生による省エネ活動などを組み合わせ、キャンパスを実証フィールドとした省CO<sub>2</sub>活動に取り組んでいます。

2015年度は、東日本大震災を起源とする電力事情を反映し、埼玉県地球温暖化対策推進条例で電気起源のCO<sub>2</sub>排出量原単位の見直し\*2があったため、CO<sub>2</sub>総排出量およびCO<sub>2</sub>原単位が増えています。実際の電力使用量は、2014年度の6,607千kWhに比べ、2015年度は6,363千kWhに削減されています。本学では、2015年度から省エネ・コンサルタントを導入し、キャンパス内マイクログリッド\*1など各設備機器の効率的な使用に向けたPDCAサイクルを回しています。

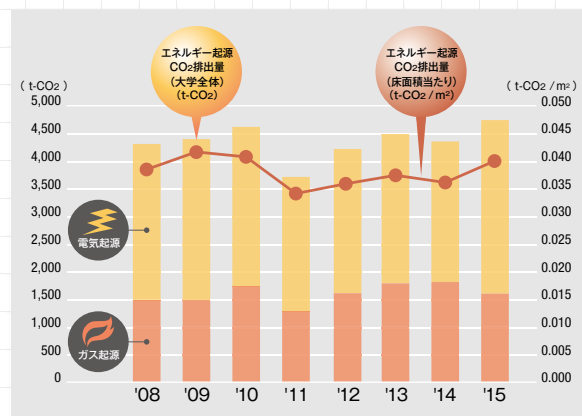
これと省エネの意識の向上により、2015年度のエネルギー消費量削減につながったと考えています。あわせて「節電見まわり隊\*3」の効果も少なからずあったものと考えます。また、学生や教職員が一丸となった省エネ推進に向けて、2015年12月に「省エネルギー推進に関する専門部会\*4」を改組しました。

\*1 P3-4を参照ください。

\*2 電気起源のCO<sub>2</sub>排出量を、0.386t-CO<sub>2</sub>/千kWhから0.495t-CO<sub>2</sub>/千kWhに変更。

\*3 P4を参照ください。 \*4 P7を参照ください。

エネルギー起源 CO<sub>2</sub> 年間排出量（大学全体）  
エネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量原単位（床面積当たり）

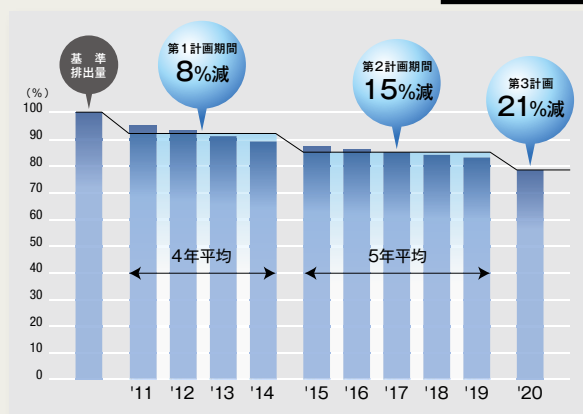


2009年度のCO<sub>2</sub>排出量原単位(床面積当たり)が増加している理由は、2棟(5229m<sup>2</sup>)と2棟別館(556m<sup>2</sup>)を解体したためです。

## 2020年以降、CO<sub>2</sub>排出量21%削減に向けて

埼玉県は、平成20年度以降の3カ年度連続してのエネルギー使用量が原油換算で年間1,500キロリットル以上の事業者に対して、削減数値を定めたCO<sub>2</sub>排出量の削減を義務づけています。削減目標は、基準年(2004～2006年度の平均)の排出量に対して、第1計画期間は8%(2011～2014年度の平均)、第2計画期間は15%(2015～2019年度の平均)、その後は21%となっています。獨協大学は第1計画期間の8%削減を達成しました。今後に向けて、新体制を構築し(P7を参照)、エコキャンパス・プロジェクトで導入した省エネ設備の運用改善、省エネ改修をはじめ、積極的な施策を展開していきます。なお目標を達成できない場合、他の事業者からの排出権購入や森林吸収クレジットの購入などが求められています。

埼玉県の地球温暖化対策計画



\* 排出削減目標は、延床面積の変化に対する補正があります。

埼玉県の  
地球温暖化  
対策計画

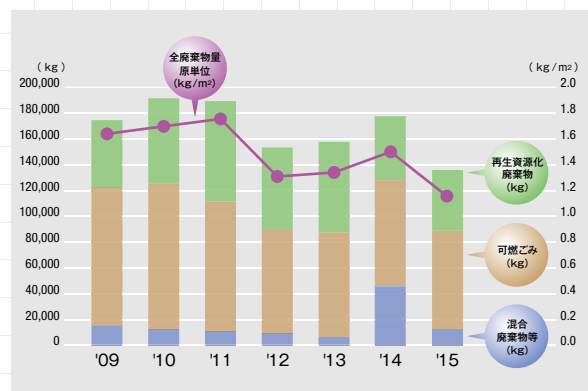


## 文科系大学として、排出量の多い紙の削減や生活ゴミのリサイクルに取り組んでいます。

**獨** 協大学から排出されるゴミの多くは、学生の学用品や資料、事務関連の業務から排出される使用済みの書類や段ボール(再生資源化廃棄物)で、これらはリサイクルされています。学生や教職員の生活ゴミ(可燃ゴミ)や、学内の備品・什器の整備によるゴミ(混合廃棄物)も大きな割合を占めています。化学物質については、理料系の学部がないため、ほとんど使用していません。

**廃** 棄物量は減少傾向を示しています。2015年度の再生資源化廃棄物、可燃ごみは、2014年度よりもわずかに少ない47,780kg、77,790kgで、ここ近年では最も少なくなっています。なお、2016年度は5棟の解体があるため、混合廃棄物の増加が予測されます。

年間廃棄物量の推移 (大学全体)



※ 2014年度は旧図書館解体に伴う備品の整理があったため、混合廃棄物が増加しました。

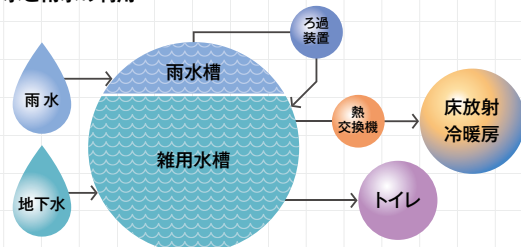
## 地下水が豊かな地域環境を活かし、水道水の使用抑制に取り組んでいます。

**獨** 協大学では、学生センターなど新たな建物の稼働に伴い水の利用が増えるなか、地下水が豊富な地域環境を活かして、トイレの洗浄水に地下水や雨水を利用するなど、水道水(市水)の使用抑制に取り組んでいます。水道水の使用量削減によって、浄水場などでのエネルギー使用が抑制されるため、地球温暖化防止にもつながります。

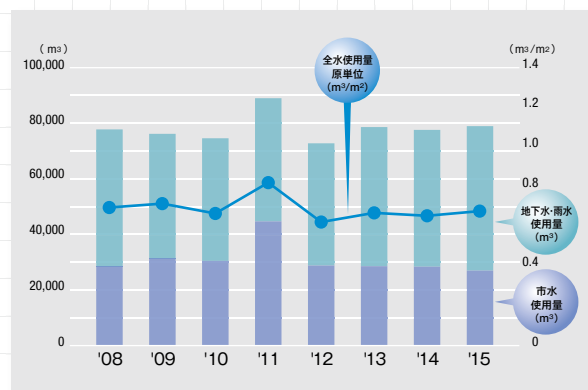
**2** 015年度は、水道使用量は27,058m³/年(2014年度28,368m³/年)と減少したものの、地下水・

雨水使用量52,017m³/年(2014年度49,113m³/年)と3,000m³/年近く増加したため、全体としては79,075m³/年(2014年度77,481m³/年)と微増しました。一つの要因として、創立50周年記念館(西棟)の建設工事が始まったことがあげられます。今後も、節水に向けた取り組みを進めていきます。

地下水と雨水の利用



水の年間使用量 (大学全体)



※ 2011年度から2014年度まで、地下水・雨水のデータに市水分が一部含まれていたため、遡ってデータを修正してあります。





|         |                                                                                      |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 発行日     | 2016 年 12 月 1 日                                                                      |
| 発 行     | 獨協大学 獨協大学環境共生研究所                                                                     |
| お問い合わせ先 | 獨協大学 総合企画部 総合企画課<br>〒340-0042 埼玉県草加市学園町 1-1<br>TEL 048 (946) 1635 FAX 048 (943) 3160 |
| ホームページ  | <a href="http://www.dokkyo.ac.jp/">http://www.dokkyo.ac.jp/</a>                      |



獨協大学環境報告書の用紙は、FSC認証紙を使用しています。